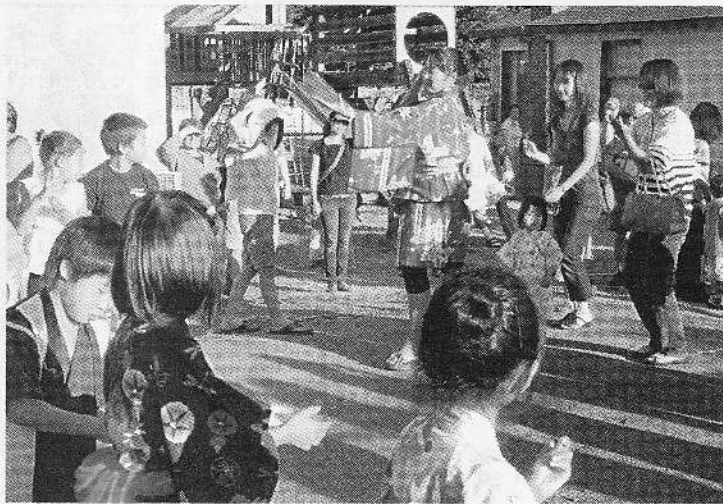


独自の指導法で成果

イーストベイ 日本語教室 新入生を募集中

今年4月にカストロバレーに移動し、独自のカリキュラムで再出発を果たしたイーストベイ日本語教室(20307 Marshall St.)は1学期を終了、サマーキャンプや秋祭りも無事に終え、11月からの新学期の生徒を募集している。



秋祭りで盆踊りを踊る子供たち

伝統芸能を新しい形で

ユニオン「民謡ナイト」開催

14日

ジャズ調にアレンジするなど、独自のスタイルで活動の場を広げている。

日本語ならではの言い回しで自然に表せるような表現力を伸ばすことに重点を置いた指導法で、生徒だけでなく保護者にも宿題を出し、家族ぐるみで日本語を学ぶ場を提供しているのが特徴で、保護者からは「今まで使わなかった言葉を生徒たちが話すようになった」「宿題を通じて子供たちとコミュニケーションを取る時間が増えた」など、反響も上々。作文を書くことに抵抗のある子供たちにも書くことの楽しさ、喜びを知ってもらおうと、クラスの中で5分間の日記の時間を設け、1学期の

後半にはどの生徒にも進歩が見られた。

サマーキャンプではソーラン節や、わらじ作り、クッキング、演劇、お店屋さんごっこなどに挑戦。年齢の違う子供たちを同じプログラムに参加させることで縦割り教育を意識し、お店屋さんごっこでは、小さな社会を通じて自分たちの街

社会に関心を深めてもらうとともに、日本語だけでなく、社会の仕組みや仕事などについても学んだ。

先月には日本のお化けをテーマにした秋祭りが開かれ、ろくろ首や一つ目小僧などで会場を飾り、お化け屋敷も特設。暗闇が怖く入場できない子供もいて、微笑ましい一面も見られた。ヨーヨー釣り、吹き矢、輪投げなどの日本らしいゲームコーナーでは保護者に交じって生徒たちも売り

子として活躍し、普段、英語を使うことが多い子供たちも日本語で元気に接客した。

同教室の代表、茂呂節枝さんは「新しい環境の中で生徒の反応をみていましたが、期待した以上に快調なスタートが切れ、子供たちは学校が楽しいという気持ちで身体いっぱい表現してくれました」と手応えを述べ、「2学期は夏祭り、運動会などの文化行事を通じ、クラスルームとは違う学習の中から子供たちの違った一面を見たい」と期待を込めた。

同教室では現在、家庭で日本語を話さない子供(小学2〜5年生)と幼児(3〜5歳)の2クラスで生徒を募集している。問い合わせは

電話(510)695-1432、6、ebjic@ehihongo.infoまで。詳細はウェブサイトwww.ehihongo.infoで閲覧できる。(亀田珠紀)